

## 平成22年度 阪神北地域夢会議の概要

日 時：平成22年6月27日（日）13:00～16:00

場 所：アピアホール（宝塚市）

参加人数：111名

主 催：阪神北地域ビジョン委員会、阪神北県民局

### 1．開催趣旨

さらなる少子高齢化や人口減少が予測される中、望ましい阪神北地域の将来像と取り組み方策を参加者全員で検討し、今後の地域でのビジョン委員活動や、「阪神市民文化社会ビジョン」の見直し点検に反映させる。

### 2．テーマ「語ろう夢を！地域を超え 世代を超えて」

### 3．プログラム

#### 【第1部】プレゼンテーション

- ・ 演劇「失われた一世紀」  
（NPO法人 あったか演劇研究会）

#### 【第2部】テーマ別意見交換

- ・ 「家族と家庭」「安全と安心」「生活と地域経済」「環境とエコ」のいずれかのテーブルで意見交換を行う。

#### 【第3部】意見発表

- ・ テーマごとの意見をもとに、全員参加の意見交換



### 4．意見発表（発言要旨）

#### 家族と家庭

3つのテーブルから出た意見をまとめた。子育て中の方、子育てを終えられた方、学生、それぞれの立場から貴重な意見が出された。家族、家庭は、人が生まれ育ち成長していく一人の人間として生きていく上で必要なものである。また、社会を構成する最小単位で、善し悪しは別として、一生つき合う大事な構成体である。しかし今、この家庭が弱体化していると言われている。どうして家庭は弱くなってしまったのか。核家族化の進行、都市化や過疎化の進展など課題はたくさんあるが、そうしたことを止めることはできない。また、家族のコミュニケーションを阻害する携帯やパソコンなどの機器も便利なもので、今の社会には必要なものであり、なくすことはできない。

昔の大家族や地域社会と密接に関わっていたような、温かく力強い包容力のある家庭に戻った方がいいという意見もあるが、本当にできるかという難しいという意見が多かった。昔の家族はいいこともあるが、父長制や家族会議など、ときには個人の意志や人権の尊重が

阻害される場合がある。また、嫁姑問題などもあって、今の若い人は親から離れて生活する傾向があるとの意見もあった。

コミュニケーションや絆、愛といったフレーズばかりで、うんざりだという意見もあるが、やはりそうしたキーワードを言われる方が多くいた。絆とは対話である。家族だからこそ話せること、家族で話しができなくて、子どもが外へ飛び出していかなければならない、そうした包容力のない家庭では、子どもはしっかり育たない。人間は一人では生きていけない。それを個々で解決するのではなく、地域や家族で話し合っ、いろいろな問題を乗り越えていく、そうしたことが経験となって、人の心が育ち、家族が温かくなり、社会が温かくなる。そうした生活の基本となる家族や家庭をつくっていければという意見が出された。

### 安全と安心

安全と安心がテーマであったが、家族と家庭のテーマと意見が重なるところがあった。マンションのオートロックは、本当に安全なのか、これから高齢化すれば、孤独死などが逆にわからないのではないか。

演劇にあったロボットの介護は有難いが心が伝わらない。絆といった人と人とのつながりが大切で、それが安全、安心につながるのではないか。

安全、安心の社会の中心は家庭教育にある。しっかりした夫婦関係を築くことが親子関係にもいい影響を与える。それが地域づくりとなり、国をつくっていく。社会教育の前に家庭教育をしなければならない。

仲良く暮らせるコミュニティづくりとして、地域住民の参加意欲を向上させるにはどうすればよいか、チームを組んで新聞の有無を確認するなど見守りの方法を検討すべきではないか。

化粧した歩道は欲しくない。見た目重視の歩道ではなく、利用できる歩道にしてほしい。

本当は地域に住みたいが、老人ホームに入ると地域から離れてしまう。また、マンション住まいでは、住人と廊下ですれ違うだけで、どんな人かもわからない。万が一のときの助け合いに不安がある。

男性が地域に入っていくためのネットワークづくりが必要であるといった意見が出された。

### 生活と地域経済

3つのテーブルで出された意見をまとめると共通する言葉が2つあった。1つは、家族と地域の交流を活発化させ、コミュニケーションの場を多くつくること、もう1つは、平成の寺子屋をつくることである。

また、地産地消の観点から、地元野菜の直売所をもっと活用して、食糧自給率を20年後には60%くらいまで上げれば、もっと地域が活性化するのではないか。

高齢化については、3つのテーブルから意見があった。例えば、川西市の大和団地で今住んでいるのは75%で、あとの25%は空いているので、若い人に入居してほしいというもの。



J R福知山線に阪神北のヘッドマークをつけて走らせてはどうか。

地域で株式会社をつくって利益が出たら、地元還元するといったことができれば、若い人の働く場所もでき、もっといい社会になるのではないか。

テーブル参加者には学生がいたが、将来に希望がないと話していた。必ず明るい時代がくるので、もっと前向きな意見が大事だと思う。

## 環境とエコ

環境というテーマからすると、CO<sub>2</sub>の削減が絶対的なものである。無駄をなくす、ゴミの分別といった3R運動を生活の中に取り入れることが大事である。また、これらを子ども教えることが大人の役割である。

自然の保護、保全が大事であることが3つのテーブルの共通項目であった。自然と共生すること、自然と人間だけでなく、人間と動物の関係が大事である。今年は、生物多様性の国際会議であるCOP10が名古屋市で開かれる。これは政府の問題だが、私たちも関心を持って取り組まなければならない。

公園に子ども集まっていない。自然を利用した公園づくりに取り組むべきである。また、河川の護岸はコンクリートでなく、ホタルが棲むような環境にしてほしい。

自転車の利用がエコ活動につながるが、オランダやドイツに比べて、自転車道が少ないので、事業者につかってほしい。また、モノレールを整備するなど、行政は、エコに係る施策を進めてほしい。

将来を担う子どものために、私たちが何をし、何を残していくのか、考える必要がある。

## 会場意見等

家族と家庭について話した。父の日や母の日、敬老の日は何かをあげればいいというようになっている。物を上げれば感謝の気持ちを伝えたようになっているが、そうではない。何かしてもらったら感謝するのは当たり前である。本当の感謝はどう伝えるべきなのか。父や母、家族が一番大切である。国からの現金給付は、家族全員で旅行に行くという目的などに限定してはどうか、お金を何に使うかわからなければ、何を目的としているのかとなる。このため、親孝行の日を設ければ、家族で何かしようとなるのではないかと考える。

安全と安心のテーマで、化粧した歩道について発表があった。歩道の多くは、化粧され見た目にきれいだが、車いすが通れる歩道にしてほしいという意味である。

今回の夢会議は、劇団の方が参加したので、全体的に良くなった。劇団の方も今後エコをテーマに取り入れたいと言ってくれた。私たちは夢を追求することも大事だが、それを実現することが大事である。そのためには行政との連携が必要である。

環境に関して、自転車の利用について意見があった。例えば、川西市内から一庫公園へ行くにはバスを乗り継がなくてはならない。猪名川に沿って自転車道があれば、車を使わなくても行けるので、実現してほしい。

また、第二名神高速道路のインターチェンジができれば、交通量がふえるので、環境に優しい社会をめざした施策を実施してほしい。

私は、環境とエコについて話し合ったが、家族と家庭、安全と安心、生活と地域経済の4つのテーマはバラバラではなく、一つにつながっているという印象を受けた。経済と環境が組み合わされなければ人は動かない。公園の話でも、以前に住んでいた岡山市内では、自然の多い公園があったが、夜間は物騒である。自然が多いということは、死角がふえ、安全が損なわれる。この2つをどう調整していくのか、といった難しい面がある。家族と家庭、あるいは環境とエコでもいろいろな壁がある。どのように子どもに伝えていくのか関係する。これからはテーブルを超えた議論が必要である。



## 5. 専門委員、県民局長コメント（発言要旨）

### 滋野専門委員

専門分野は、モノとサービスをいかに交換するか、それを促進することが経済的に豊かになり、それを求めていくことが人間の幸せにつながるとして、コミュニケーションを実施し、いかに消費者の心を捉えて、モノを買ってもらえるかといったことである。そうした点から言うと、今の日本、あるいは、経済発展した国々は実質的に豊かになってきたので幸せかという点必ずしもそうではなく、先般、発表された幸せな国では、デンマークが1位で日本は90位であった。デンマークが豊かでないとは言わないが、そういうことでない指標が幸せを構成するのだとわかった。

すべてのことがコミュニケーションに由来してくる。コミュニケーションは、相手の思いをいかに理解して評価するか、もしくは、自分の思いを理解してもらえるかであるが、言葉でなく、むしろ思いだとか形が行動にあらわれてくる方がよく伝わるのではないか。その手段として、モノであったり、サービスであったりする。しかし、そこに価格がついてくると、どうも上品でなく、それを考えることはよくないのではないかという感覚があって、地域活動には根付きにくい。しかし、実際は、物事を動かしたり、それを実践しようとする、エコや地域活動にも経済的な原則が含まれなければ動かない。今の経済状況をいかに心のこもったものにするかという観点を考える必要がある。思いや考えていることをいかに表現力豊かに伝えるか、技術革新がコミュニケーション手段として使われていくが、思いや感情を相手に伝えたいということを、より積極的に考えながら、地域とのつながりや家庭生活、環境とエコといった地球規模の問題にも取り組むことが大事である。これから現実に行動するときには、経済原則という観点も考えながら実施すれば、何か継続的なものができると感じた。

### 今井専門委員

家族と家庭については、大切さが強調されており同感だが、家族単位、家族本位だけの考え方であれば、本質が違う方向に向きかねない。地域社会の中での家族、家庭であり、その位置づけで考えることが必要である。

いくつかのテーブルではコミュニケーションや絆が強調されており印象深かった。これは、



それぞれのテーブルで共通要素としてあったからだと思う。また、エコという言葉が気軽に使っているが、絆という観点から語るとわかりやすい。エコは現代社会、あるいは、日本では環境の側面から語られるケースが多い。しかし、元来はエコロジー、生態学からの言葉である。人間も含めた自然と自然とのつながり、絆という言葉は正確ではないが、つながりを強調している。コミュニケーションや絆を語ることは、実はエコについて語っている。

一般論で、家族と家庭、絆、エコといったことは必要であるとしても、具体的に何をしていくか、どうすればうまくいくのかを考える必要がある。活動のレベルをどこにおくか、個人として、エコや家族の絆を語ることもできれば、社会レベルでも同様に語れることができる。どういうレベルの行動なのか整理して考える方がいい。私たちを取り巻く現状で一番大きいのは少子高齢化・人口減少化である。その社会の中での実現性をこれから考えていくべきである。

### 藤本専門委員

今回の演劇に感動した。この演劇は夢会議の実行委員会が、大勢で話し合うのに、どうしたら課題を共有できるかを考えて取り入れた。その工夫がいい。これを実現するのに、1枚の紙で依頼するだけでは無理である。こういうテーマで、こんな思いを来た人に伝えたい。そうした努力が素晴らしい。また、演劇の最後に、あったか演劇研究会の皆さんが壇上に出てきた。たくさんの方で難しいテーマを考えてくれた。これは実行委員会の要求に対するオリジナルである。課題が大きく、どう表現するか、難しかったはずである。阪神北地域で話すならとして考えてくれたと思う。若い方もたくさんいたので、また夢会議に来てほしい。

各テーマに共通して、地域やコミュニティが大切だという話があった。これを実現しようと思えば、一人ひとりの行いが大切となる。こうした会議や地域でもルールを守らなくてはいいない。それぞれ違った価値観の人と一緒にやっていくには思いやりが必要である。黙っている人がいたら声をかけるとか、全然違う価値観の人にも認め合って、何かいいところを見つけるとか、そうしたことが大切である。コミュニティで何かしようとする一人でするわけではないので、合意形成していくことが大切である。自分の考えだけを貫いても、コミュニティで何かするのは絶対に無理である。どこかで合意しなければならない。そうしたことが大切である。こうした会議もその訓練の意味合いがあると思う。

環境とエコについて、生物多様性の話があった。今年は、生物多様性の国際会議、COP10が名古屋市で開かれる。県立人と自然の博物館の岩槻館長が中心となって、「里山」という言葉を世界に誇れる日本の素晴らしい仕組みとして「もったいない」というような世界の言葉にしようと提案している。演劇にも八百万の神が出てきた。たくさん神様がいることを理解できるという日本人の感覚は、いろいろな価値観を理解し、受け入れようということで、そうした感覚を元から持っており、素晴らしいことである。里山という自然は、人が山に柴刈りに入ることで保たれる。人が自然に入る、そして多様な生物と共生する。これは世界に誇れる仕組みである。



自然や生物多様性は、みなさんの近くにある。阪神北地域でも宝塚市や川西市、猪名川町など北部には自然が広がっている。住むところから少し離れた自分が住んでいない地域のことも考えることが大切である。

こうした話し合いをして、このあとどうするかが大切である。ワークショップ形式で重要なのは、話し合いの結果をまとめて発表するだけで終わるのではなく、そこで得たことで自己改革できるかどうかである。ここで感動して、自分を変えようと思えるかどうかワークショップで意味のあることである。今日、感動したことや腹の立つことがあったなら、家族でも友人でも誰かに伝えることが大事である。

### 芳田専門委員

今回のテーマは、「夢を語ろう、地域を超え 世代を超えて 」ですが、みなさんは各テーブルで語り合えたか。しっかりと発表できたかどうか。夢とは何か。発表では、絆やコミュニケーションというキーワードが出てきた。それだけ言われるということは、絆やコミュニケーションが不足していると受け取るのか、あるいは、大事だとして再認識しているのか。

演劇では、コミュニケーションがとれないことがストレスとなると言っていた。そうするとそのストレスにどのように対処していくか。専門の教育臨床分野から話すと、最近、アンガーマネジメントという言葉が耳にする。怒りをどのようにコントロールするかが学校教育でも言われている。昨日の新聞でもコミュニケーションのとれない子どもたちがふえて、生徒間、あるいは、教師と生徒間ですぐに暴力に訴えるという記事があった。これに対して文部科学省から各学校に早急にガイドラインを示すとのことである。コミュニケーションが不足しているから暴力に訴えるのか、考え方はいろいろある。そうすると私たちは、普段のコミュニケーションをどうとるのが大切で、そのためにはコミュニティをどう充実させるか、そしてコミュニケーションをどう図るか。想像力として、クリエイティブ、クリエイティブビジョン、クリエーションという3つのCが重要である。そうすると、ここで話すだけでなく、いかに実現していくかが重要である。

アブラハム・マズローという心理学者は、我々にはいろいろな要求があるが、究極の要求は自己実現の要求だと言っている。自己実現とは、目的に対して、いかに努力して近づいていくかということで、これが究極の要求だと言っている。ぜひ、ここで話されたことを地域に持ち帰り、あるいは、次期ビジョンに反映させていただきたい。

### 森県民局長

4つのテーマで発表された。それぞれ違うと思っていたが、すべて家族や家庭の問題が関係していた。エコについても、子どもに対して、親が大人の責任として教える。あらゆる問題が家族と家庭の問題に共通すると感じた。また、キーワードとして、心があげられる。安全と安心についても、安全というよりは安心に関心があり、やはり心の問題である。環境についても動物に対する優しい心の問題であった。いろいろな方向から話し合われたが、家



族と家庭の問題であり、心をどうするかということであった。ただし、家族と家庭だけの問題だと言い切るのでは解決しない。地域との関わりを考える必要がある。家庭同士のコミュニケーション、あるいは、地域での役割がこれからは大切になる。

生活と地域経済のテーマでは、株式会社を設立し、利益を地域に還元すればいいという意見があった。阪神北地域は、住宅地が中心となっていることもあり、人口は県全体の約8分の1で経済活動も人口に比例して8分の1程度あるはずだが、10分の1程度である。これは、多くの方が、神戸や大阪に働きに行っているからと思われる。このため、地産地消として、都市農業を進展させるとともに、NPOを発展させた株式会社により、この地域で経済活動を行うことで、若者の働く場所もできるのではないかと考える。阪神北地域の一つの課題として、いかに地域で経済活動を行うか。これからは団塊世代の方がふえ、高齢者もふえる。そういう方が働き、活躍する場を提供する必要があり、そうしたヒントになったと思う。

家族と家庭について、演劇のタイトルにもあり、失われた10年、失われた時を求めてといった言い方をされるが、必ずしも昔がいいというわけではなく、決して昔に戻ることはない。失われたところをいかに克服し、新しい時代に対応していくかである。そういう意味で、出された意見は参考となる。引き続き、次回の夢会議やいろいろな場で深めていただきたい。